

2 小型容器栽培に適した花壇苗の選定

ねらいと成果

花壇苗の需要はガーデニングブーム等により増え続けている。しかし、県下の生産農家は比較的小規模な経営が多く、規模拡大も難しい現状である。そこで限られた施設でより多くの鉢数を生産するために、小型容器に適した花壇苗の選定を行った。

その結果、ミムラス、フロックス・ドラムンディ、ダールベルグデージー、マトリカリアは小型容器での栽培に適していた。

内容

図1に示した12品目について9cmポット（対照）、7.5cmポット及び6cmポットでの生育を比較した。

図1に株径を、図2に地上部重を示した。対照の9cmポットで株張りが10cm以上のものは8品目、地上部重が5g以上のものは6品目あった。これらの品目では7.5cm、6cmとポットが小さくなるにつれて生育が抑制される傾向がみられた。特に、プロワリアはポットが小さくなると下葉が枯れ上がり、品質が劣った。

一方、10cm以下の株張りのものはポットが小さく

なっても生育への影響は少なかった。なかでもマトリカリアやフロックス・ドラムンディ、ダールベルグデージーは9cmポットでは地上部のボリュームが不足するが、容器の小型化によってポットと地上部のバランスが良くなった。また、ミムラスは生育の初期から開花を始めるために早期に容器の大きさに見合う草姿となり、小型容器で栽培すると短期間での商品化が可能であると考えられた。

開花については、パンジーでは7.5cmポットでは6～9日、6cmポットでは7～14日開花が遅延したが、その他の品目では容器の小型化による影響はみられなかった。

以上の結果、9cmポットで地上部の大きくなりすぎない品目はポットの小型化による影響が小さくなった。

普及上の注意事項

ポットを小型化するほど乾燥しやすくなるために、灌水には注意が必要である。また6cmポットでは地上部が大きくなると転倒しやすくなるため、SSトレイを用いるなど、転倒防止対策が必要である。

神戸 隆（中央農技・園芸部）

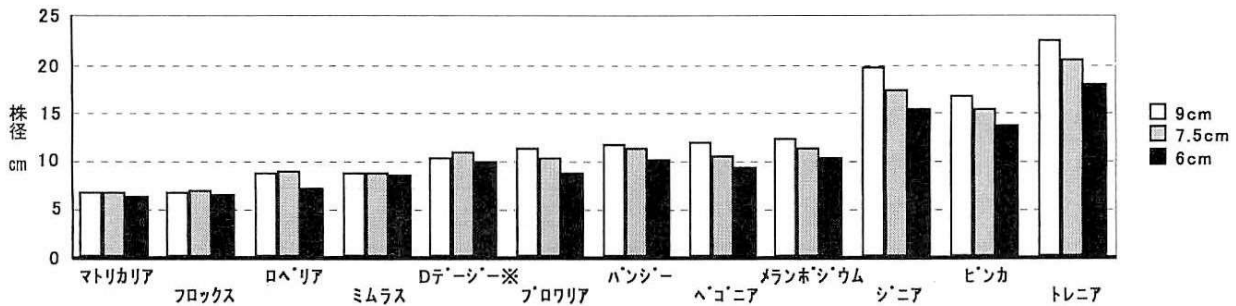


図1 栽培容器の大きさが花壇苗の株張りに及ぼす影響 ※ダールベルグデージー

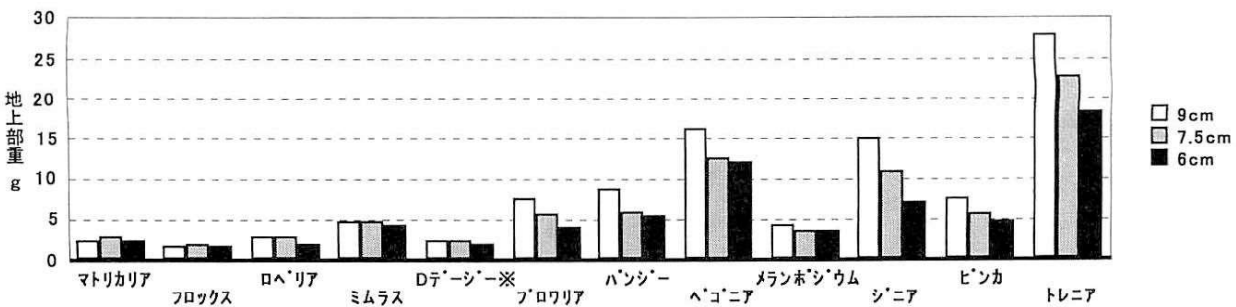


図2 栽培容器の大きさが花壇苗の地上部重に及ぼす影響 ※ダールベルグデージー